

旧市ヶ谷庁舎を大解剖!

アジア経済研究所は、1999年に東京都新宿区市谷本村町から千葉県千葉市の幕張新都心に移転しました。旧庁舎は、現在は中央大学のキャンパスとして第二の人生を送っています。移転前の研究所に在籍していた職員の思い出話から、旧市ヶ谷庁舎をたどってみましょう。



▲新館屋上に鎮座するお稲荷さん(1999年)

アジア研の守り神「お稲荷さん」

市ヶ谷庁舎の冷暖房はボイラー設備によって稼働していました。冷暖房の季節(年2回)には火入れ式の際にお参りして安全祈願をしました。このお稲荷さんは大手町から市ヶ谷に移転する際に西武線の東伏見にある「東伏見稲荷神社」から分祀されて祀られるようになったようです。「東伏見稲荷神社」自体は昭和の初めに京都の伏見稲荷神社から分祀されたものなので、その意味では、このお稲荷さんは京都の伏見神社の孫にあたるとも言えます。(S.I.)

今日の夕飯何にする? 「談話室」

6時過ぎになると、談話室にある店屋物や弁当のメニューの束を持って、残業飯の常連のなかから誰かが注文を聞いて回ります。ベージュ色の布張りのソファとローテーブルがあり、両側を廊下に挟まれた談話室は、業務時間中は主に来客用スペースとして使われていたように思います。みんなで一緒に食事をとりながら、ワイワイガヤガヤと雑談に花を咲かせたのも、懐かしい思い出です。(N.O.)

あと1年早ければ……三島事件と新館の誕生

市ヶ谷庁舎の隣には、防衛省(旧防衛庁)と陸上自衛隊がある。この場所は、1970年11月25日に作家の三島由紀夫がクーデタを呼びかけ、最後は自ら命を絶った事件で有名である。事件当日、上空を飛び回るヘリコプターと九段通りを走るパトカーの凄まじい音を聞き、現場が隣であることを知った多くの職員が本館の屋上に駆け上がったものの、三島が演説したバルコニーは見えない角度にあり、その様子をうかがうことはできなかったそうである。当時はまだ新館はなく、約1年後の1972年2月に完成した。もし新館があれば、その屋上から三島の事件が見えたかもしれない。

新館

国際会議場

新館9階には、同時通訳ブース付きの国際会議場があった。



▲国際会議場の入口(1993年)

本館

卓球・ゴルフ・野球・空手 「市ヶ谷時代のスポーツ事情」

都心の庁舎ながら、そのあちこちでスポーツが盛んに行われていたようである。屋上にはゴルフ打ちっぱなし用のネットが設置されており、新館の地下には卓球台があり、部活の練習や、職員だけでなく同居するアジア太平洋統計研修所(SIAP)の研修生のリフレッシュに利用された。他にも、屋上でキャッチボールやノック、エレベータ前で空手の練習が行われるなど、空いたスペースが余すことなく使われていた。

もう1つのアジア研旧庁舎

開発スクール(アイデアス)は、私が研修生になった1994年に荒木町のインテック88ビルへ移りました。アジア研からは徒歩5分の距離で、窓が大きな1階には事務局が、たしか4階と6階に教室、自習室、資料室がありました。国内外の研修生、集中講義で招へいた先生、それにアジア研の職員を交えて、月に1度はパーティーを開いて親睦を深めました。そのたびに学部長で高知出身の山本一巳さんが歌った「よさこい節」は今でも覚えています。(T.S.)



▲授業風景(1994年)

駆け込み寺としても大活躍「和室」

本館の6階には大小2つの和室がありました。茶道の稽古や囲碁を打つ場になっていました。布団もあって、残業が深夜に及ぶと、和室で寝ることになりました。近くで飲んで、終電を逃した場合も、建物の入口にいる守衛さんに頼み込んで入れてもらい、和室で寝ていました。昭和っぽいですね。幕張の建物にも和室はありますが、そこで寝る人はほとんどいなくなったようです。(Y.S.)



▲創立記念日の茶会(1986年)

地表と魚がお出迎え「正面入口」

豪華な正面入口には池と世界地図をモチーフにした大判のオブジェ(「地表」 昆野恒作)がありました。池には鯉がいて、ビル管理会社(東京ビジネスサービス株)が世話をしていました。後ほどウグイも追加で放たれたようです。(Z.A.)



▲「地表」 昆野恒作(撮影:1999年)

本館と新館の通路「けもの道」

1階と6階の連絡通路以外に、4階部分に本館と新館を繋ぐ「けもの道」がありました。この道は新館4階に入居していたアジア太平洋統計研修所(SIAP)の研修生がアジア研図書館へアクセスし、自国のニュースを知る最短コースでした。(Z.A.・T.U.)

昼の憩いの場「食堂」

本館2階には食堂がありました。「早い、安い、……」の三拍子が揃っており、焼き魚にプラスチックの箸を刺そうとしたら、余りの硬さで箸が折れることもありました。月曜日の定食はなぜか(?)チャーハンが多かったように記憶しています。(T.U.)

ロケビルとしての市ヶ谷庁舎

テレビの刑事ドラマ「太陽にほえろ」で、市ヶ谷庁舎が使われました。病院の想定で「城西病院」という名前だったと記憶しています。容疑者が入院しているという想定で、3階のバルコニーを警察犬のシェパードが走っていました。建物の周りには、白衣の看護師さん役の人が何人か歩いていたりしました。当時、アジア研の建物はよくテレビのロケに使われたように思います。(S.I.)